

編集後記

「平和を考える小中学生作文集第三十二集」をお届けします。本年度はこの作文集に、小学生から三十一歳、中学生から六十四歳、計九十五歳の作品が寄せられました。平和・戦争・核兵器などについて、小中学生ならではの視点で、真剣に向き合う様子が伝わってきました。

私たちのふるさと沼津は、季節の移り変わりとともにその美しい姿を変えながら、人々の生活を育んでいます。戦渦に荒れ果て、そこに暮らすたくさんの命が失われた時代がありました。

その後、一九八七年に、沼津市は「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。三十五歳が経とうとしている現在も、同じ地球上に、戦争で苦しんでいる方々が存在しています。

一方、平和な時代が続き、戦争を知らない世代が大半を占めるようになった日本において、これからの時代を担う小中学生が、平和について想いを巡らせ、考えることは、大変有意義なものです。

本年度の作品も、学年を問わず、平和の尊さや戦争の悲惨さについて、正面から向き合った作品が数多く寄せられました。

戦争に関する資料や映像を見て感じた戦争の悲惨さや無意味さを伝えようとしている作品、自分が住んでいる沼津でも、かつて戦争の被害があったことを知り、戦争は決して遠い世界のことではないと伝えている作品、戦争を経験した方の話を聞く、図書館のパネル展示を見学するなどして、戦争を二度と起こしてはならないと思い、その思いを伝えようとしている作品など、いずれも、小中学生の皆さんの、平和に対する熱い思いや願いが込められたものばかりでした。

この作文集を通して、沼津市の小中学生の皆さんが、世界の人々と本当の平和とは何か、とてもよく話し合い、未来へと希望をつないでくれることを願っています。そして、沼津市が「核兵器廃絶平和都市宣言」で誓った、「美しい地球、そして平和な生活を子々孫々まで守りぬくこと」について、責任の重さを受け止め、そのための努力を惜しまず続けていってほしいと思います。

最後に、この作文集を読んでくださった皆様方に心から感謝申し上げます。